

書名		2 東 書
項目	新編 新しい 書写	
特 色	内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○学年に応じて、字を書く姿勢や筆の持ち方など、基礎的な内容を写真で大きく示している。低学年においては、下から見た鉛筆の持ち方が載っており、さらにわかりやすくなっている。 ○どの学年とも、ねらいの書き方が端的に書かれている。 ○1, 2年生は、水書用紙つきであり、「はね」や「はらい」などが繰り返し練習できる。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「何を学ぶのか」、単元のねらいを焦点化したものを「書写のかぎ」とし、目次のようにになっている。これを見れば、本時の学習が何の学習なのかが一目でよくわかる。 ○「見つけよう」→「たしかめよう」→「生かそう」の流れで授業が展開し、各単元の終末には、必ず「振り返って話そう」マークがある。自己評価だけでなく、対話することで理解を深め、振り返りを深めることができる。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○どの学年にも最初のページにはイラストマップがあり、1年間の学習を見通しをもって行うことができる。</p> <p><毛筆と硬筆との関連 > ○どの単元でも、硬筆文字からねらいを発見し、毛筆に展開したあと硬筆で別の文字を書くことで定着が図れるように構成されている。</p> <p><各教科や日常生活との関わり> ○手紙やポスター、新聞など、他教科の学習や生活の中で生かせる内容がどの学年でも取り入れられている。 ○世界の文字や漢字の成り立ち、俳句や漢詩などが掲載しており、伝統や文化を意識し、学習できる内容が盛り込まれている。</p>
	資 料	<p>○どの学年とも、その学年で学習する漢字の一覧表がついている。 ○3年生以上には、「書きぞめ」のお手本がついている。</p>
	表 記・表 現	<p>○毛筆の点画を書くポイントや姿勢が、擬音語で表現されており、わかりやすい。 ○文章は、簡潔で、学年段階に応じてわかりやすい表現となっている。</p>
総 括	<p>○他の教科書に比べるとA4版で大きくなっており、書き込み欄が多くある。 ○左利きの児童にも配慮し、鉛筆の持ち方や道具の置き方など、左利きの場合も掲載してある。また、お手本は上、書き込み欄は下など、どちらの児童でもしっかりとお手本を見て書けるようになっている。</p>	

書名		1 1 学 図
項目	みんなと学ぶ 小学校書写	
特 色	内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○「学習の進め方」に沿って書き込み欄を豊富に配置しているため、ノートを使用せずに効率的に技能が習得できる。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○どの単元も「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」「ふり返ろう」の4部構成になっており、思考力や表現力をはたらかせて取り組めるようになっている。</p> <p>○「考えて書こう」では、個人で考え、全体で話し合うという流れを示しており、その際にははたらかせる見方・考え方を「書き方のカギ」として示している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○葉書や手紙の書き方や文字に関わる資料を通じて、自らのこれからの人生に必要な書字技能を的確に活用できるように配慮している。</p> <p>○6年生には、発展として中学校で学習する「行書」の特徴を示している。</p> <p><毛筆と硬筆との関連 > ○1、2年生には巻末の資料編に「水ふでをつかってみよう」を掲載しており、3年生から始まる毛筆の学習が意識できるようになっている。</p> <p>○3年生以上では、単元毎に「確かめて書こう」「考えて書こう」を毛筆で書いた後、「生かして書こう」を硬筆で書くような展開を示している。</p> <p><各教科や日常生活との関わり> ○巻末の資料編にローマ字(3~6年)、都道府県名(4~6年)を掲載しているため、繰り返し練習して、日常生活で使えるよう工夫している。</p> <p>○1、2年生には、横書きの練習ができる単元があり、3~6年生には葉書・封筒の宛名書きの練習ができる単元がある。</p>
	資 料	<p>○低学年には「書き方のカギ」シールがあり、単元目標のポイントや自己の課題を明確にしながら学習が進められるようになっている。</p> <p>○「書写のふしぎ」というコラムを掲載しており、書写学習に興味・関心をもって主体的に取り組めるようになっている。</p>
	表記・表現	<p>○硬筆の書き込み欄では、教材文字を上配置しているため、利き腕を問わず教材文字が隠れずに練習できる。</p> <p>○2文字以上の毛筆教材はすべて半紙と同じ大きさを掲載しているため、そのまま手本として使用できる。</p>
総 括	<p>○キャラクターの吹き出しを効果的に使用して、考える場面や書く場面ではたらかせる見方・考え方を示している。</p> <p>○巻頭で、各学年ごとの学習のめあてや、前年度学習したことを掲載しているため、系統的に学べるようになっている。</p>	

書名		17 教出
項目	小学 書写	
特 色	内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○文字を書くときのよい姿勢や鉛筆・毛筆の持ち方について、写真や絵を使って、わかりやすく示している。 ○「姿勢の合い言葉」や「運筆のリズム」で、楽しみながら知識や技能を習得できるよう工夫している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○自分の課題を考えさせ、自分の課題に合った学び方を選択できるようにしている。 ○学習の振り返りとして自己評価の欄を設けるとともに、他の児童との話し合いを学びの過程に位置づけている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○3年以上は、学習の進め方が示されていて、「どのように学ぶか」という見通しをもち、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○日本の伝統文化や様々な人々との共生・共育の観点から、多様な教材語句や文章が選定されている。</p> <p><毛筆と硬筆との関連> ○毛筆で学習した原理・原則を硬筆に効果的にいかせるように構成が工夫され、硬筆と毛筆の一体化が図られている。 ○硬筆による適切な運筆能力の向上と定着を図るため、1年の教科書には実際の水書用紙がついている。</p> <p><各教科や日常生活との関わり> ○身につけた書写力を各教科の学習で発揮できるように、「わかりやすく書き表す」というねらいに焦点化し、教材化している。 ○日常生活で活用できるように、学年の発達段階に合わせて、招待状や案内状などの書き方を学べるようにしている。</p>
	資 料	<p>○毛筆では、穂先の通り道を朱墨で示すことにより、筆使いをわかりやすくしている。 ○ためし書きとまとめ書きの欄を設けて、学習の定着を図っている。</p>
	表 記・ 表 現	<p>○判読しやすい配色であり、手書き文字と近い形で学習できるユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ○見開きを基本とした見やすく使いやすいレイアウトである。</p>
総 括		<p>○様々な字体や筆記用具が紹介されるとともに、キャラクターに動きや吹き出しをつけることによって、興味・関心を高めながら学習活動に取り組めるよう工夫されている。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、各学年の単元構成や教材内容が工夫されている。</p>

国語科(書写)調査資料1-4

書名		38 光村
項目	書写	
特色	特 内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉 ○低学年では、姿勢や鉛筆の持ち方について絵や写真でわかりやすく説明している。姿勢を維持するための書写体操も取り入れている。中学年では、用具の片付けなど、写真を見ると一目でわかるように工夫している。 ○毛筆では、点画の種類や文字の筆づかいを、墨の濃淡で穂先の動きがわかるように説明している。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○猫のキャラクターを登場させ、とめ、はね、はらい（毛筆では始筆、送筆、終筆）などを意識させるよう工夫している。 ○文字の原理や原則を考えたり話し合ったりする活動を設け、主体性や思考力、判断力、表現力を養えるようにしている。</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○中学年、高学年では、学習の進め方が明示されていて、見通しをもって学習できる。 ○「できたかな」「ふり返ろう」「たしかめよう」で学習目標に即して知識や技能が定着できたか、自分で確認できるようにしている。 ○シールを貼ることで、自己評価できる。</p> <p>〈毛筆と硬筆との関連〉 ○1年に水書シートが付いており、繰り返し練習できて毛筆に繋がる学習ができる。 ○3年では親しみやすいキャラクターやシールの活用により、児童が楽しく学ぶことができるように工夫されている。</p> <p>〈各教科や日常生活との関わり〉 ○平仮名、片仮名、毛筆などの書体が整っていて、部分の形も統一されている。 ○手紙、新聞、招待状など、日常生活や他教科でも生かせるように配慮されている。</p>
	資 料	<p>○学年で学ぶ漢字、平仮名表、片仮名表、ローマ字表などの資料が巻末に添付されている。文字も硬筆と毛筆で書かている。 ○学習の助けとなる資料のQRコードが付いている。</p>
	表 記 ・ 表 現	<p>○挿絵が淡い色合いで描かれていて、目にも優しく親しみやすい。 ○文字の形や書体が見本として、わかりやすい字体になっている。</p>
	総 括	<p>○猫や筆のキャラクターを登場させ児童が楽しくわかりやすく学習できるように工夫している。 ○書く力が確実に身に付くよう、習得と活用を繰り返している。</p>

国語科(書写)調査資料1-5

書名		1 1 6 日 文
項目	小学書写	
特色	内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○書く姿勢や筆記具の持ち方が、写真やイラストを使って巻頭に大きく掲載されている。 ○巻頭に各学年の「目標」「学習の進め方」が明示され、確認できるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各教材毎に「考える」「たしかめる」「いかす」「できたかな」(自己評価)の学習過程を示し、見通しがきくようになっている。 ○「考える」の過程で、自問自答できるようになっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「言葉のまど」「国語の広場」「生活と書写」のコーナーを設け、実生活や学習活動に役立つ内容となっている。 ○外国語教育を踏まえ、エアメールやアルファベットの書き方が掲載されている。</p> <p><毛筆と硬筆との関連> ○毛筆教材から硬筆教材(毛筆→硬筆)と、毛筆で学習した原理、原則を硬筆に効果的に生かせるように構成が工夫されている。 ○手本の文字は硬筆毛筆とも、自然な運筆で無理がなく明確な筆使いとなっている。「ま」「は」等の丸の部分が三角結びになっており、硬毛の整合性も図られ、書写技能の定着に適した表現となっている。</p> <p><各教科や日常生活との関わり> ○手紙や掲示物の書き方、原稿用紙の使い方などの書式が具体例を挙げて掲載されている。</p>
	資 料	<p>○巻末資料で、平仮名・片仮名・現学年の漢字の書き順や総画数を示している。 ○三年生以上の毛筆手本は、半紙原寸大、巻末折り込みは長半紙原寸大教材で掲載されている。</p>
	表記・表現	<p>○文字が濃くはっきりしている。 ○児童になじみやすい絵や言葉、キャラクターを使って説明している。 ○言葉遣いや文章は、平易で親しみやすい表現となっている。</p>
総 括	<p>○過度な配色を抑え、硬筆・毛筆ともに筆記具の書き味が出るように濃度に配慮され、手本文字に注目できるようになっている。 ○活字が大きく太く、読みやすさに配慮されている。 ○一教材一目標とし、内容が明確化・焦点化され、児童が書写力を確実に習得し、活用できるようになっている。</p>	